

令和8年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 本気で学ぶ 丈夫で心豊かな 本庄っ子の育成

目指す子どもの姿 自ら問いを立て主体的に行動を起こす力 つまづいても立ち上がる・困難に立ち向かう子 思いやりの心と共感する心

変容を目指す資質・能力 a 知識及び技能 b 思考力、判断力、表現力等 c 学びにむかう力、人間性等 d 情報活用能力 e 課題解決能力 f 学び続ける姿勢 g コミュニケーション能力

三田市立本庄小学校
学校長 小池 学
研究主体【管理職と学力向上担当・研究推進担当を中心とした学力向上委員会】

前年度		継続性	4月 (※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を赤字で修正)		2～3月 年度末評価		
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)		学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員点検 (今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
・文章から多面的に情報を読み取る力の育成 (b・c・e) ・話の中心を捉えて聞く力の育成。(b・c・e)	○タブレットや書籍を使った調べ学習の中で、文章と図表を結びつけたり情報と情報とを関連付けたりして考えることができるようになってきた。質問調査では、「必要な情報を見つけて情報を整理する」に対して肯定評価が約80%とおおむね良好である。引き続き情報と情報を関連づける学習を行っていく。 ◆「思考・判断・表現」に関する項目の平均正答率は全校を下回り課題が見られる。文書構成を考えて文章を書いたり、図表を用いて自分の考えを文章に書いて発表したりする機会を増やす。 ◆話を聞いて考えたことを交流するなど、対話を取り入れた授業を工夫していく。	→	・複数の情報を結びつけ、多面的に情報を読み取る力の育成 (b・d・e) ・対話を通して、問題解決に向かう力の育成。(b・c・e・g)	①国語の「思考・判断・表現」に関する項目の平均正答率が全国平均に近づく。 ②質問紙調査で「国語の授業で、目的に応じて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している」の肯定評価が70%以上	・読書タイムを通して、言葉の力をつけるとともに、思考力・表現力・感性を高める。 ・「読む・書く・聞く」の活動をバランスよく取り入れ、授業を構成していく。 ・授業や集会活動で、話を聞いて考えたことを交流したり、対話力を高めるためのスキルを取り入れたりしていく。 ・一人学びで学習が深められるよう、個に応じた指導の充実を図る。		
・論理的思考力の基盤となる基礎学力の向上。(a・b) ・学びあいを中心とした授業を通して、問題解決力の向上。(b・c・g)	○子どもたちの意見をつなぎ、一人一人が発言する授業構成にすることで、質問紙調査で子どもたちが友だちとの話し合いに大切さを感じている結果となり、目標②を達成できた。 ○朝の学習タイムでの計算練習やICT機器を使ったドリルを効果的に使うことで、基礎的基本的な問題に繰り返し取り組めた。 ◆「思考・判断・表現」に関する項目に課題が見られ、成果となる目標①の達成にはつながらなかった。自分の考えを書いたり、説明したりする時間の充実を図っていく。	→	・論理的思考力の基盤となる基礎学力の向上。(a・b) ・学びあいを中心とした授業を通して、問題解決力の向上。(b・c・g)	①算数の「思考・判断・表現」に関する項目の平均正答率が全国平均を上回る。 ②質問紙調査で「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の肯定評価が80%以上	・自分の考えを図、式、言葉を使って説明する活動を積極的に取り入れていく。 ・子どもたちの意見をつなぎ授業を構成することで、課題解決に向けて友だちと話し合うよさを感じられるようにする。 ・基礎的・基本的な練習問題に繰り返し取り組む。		
・自らの学習習慣・生活習慣を見直そうとする児童の育成(c・e・f)	○定期的な声掛けや、月の生活目標で掲示するなどして考える機会をとった。 ○早寝早起きについて、考える機会や、長期休業日前のチェックシートの活用で生活リズムを見直す活動ができた。 ◆目標①②ともに達成には至らなかった。保護者とも懇談や通信で課題を共有し、生活習慣の確立を促す必要がある。	→	・自らの学習習慣・生活習慣を見直そうとする児童の育成(c・e・f)	①学校評価(保護者)の「お家で、自分から、自主学習している」の項目で、肯定評価60%を上回る。 ②学校評価(保護者)の「整理整頓」の項目で、肯定的評価60%を上回る。 ③学校評価(保護者)の「早寝」の項目で、肯定的評価70%を上回る。	・児童の興味関心を引き出し、できたことを褒め、自主学習を主体的にできるようにさせる。 ・各学級で定期的に整理整頓の時間を設定する。また、読書の日に整理整頓の宿題を出すことで、家庭でも定期的に整理整頓ができるようにする。 ・家庭と連携し、環境を整えてもらえるように伝える。 ・学級集会、学級通信、ほけんだよりを活用し、早寝の大切さを児童と保護者に伝える。		
・iPadを活用し、主体的・協働的に学ぶ児童の育成(b・d)	○ミライシードのドリルパークの活用によって、必要に応じた個別最適な学びを実現することができた。 ○学校評価アンケート(児童)で、「iPadを学習に役立っている」の項目で、8割以上の肯定的評価となった。 ◆学校評価アンケート(児童)で、「自分なりにめあてをもって学習に取り組んでいる」「自分の考えを積極的に伝えようとしている」の項目は約7割である。肯定的評価が8割以上となるよう、継続して授業改善と自主学習への取り組みを進める。	→	・ICTを活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善(b・d)	・学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについての質問調査の以下の3項目で肯定評価が70%を上回る。 ・自分のペースで理解しながら学習を進めることができる ・画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる。 ・友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる	・ICTを活用して、児童同士の意見交換を行い、他者の意見や視点を尊重しながら考える場面を授業に位置づける。 ・必要に応じて、画像や動画、音声等を活用し、個別最適な学びを実現する。		
・子ども同士の学び合いを大切にしたい授業改善(c・g)	○児童の実態を交流することで、子どもたちの持っている力とつきたい力を明確にし、教員全員で指導することができた。 ○道徳科を中心とした校内研修に加えて、校内参観週間や実践交流会を持ち、教員同士の学び合いを充実させることができた。 ◆自ら問いを持ち、対話をしたくなるような授業づくりを研究し、子どもたちの主体的に学ぶ力の育成に一層努めていく。	→	・子どもの主体性を伸ばし、問いを大切にしたい授業改善(c・g)	①全職員による一人一授業の研究授業を行い、道徳科を中心とした校内研究等を充実させる。 ②学校評価(児童)の「自分の考えや意見を積極的に伝えようとしている」の項目で、肯定的評価が80%以上を上回る。	・校内授業交流など職員同士の学び合いを充実させる。 ・授業の導入を工夫し、子どもたちが自ら問いを持ち、主体的に課題を解決できるような授業作りをする。		
・小・中において児童についての情報や各教科の課題を共有して交流を行う。(c・f・g)	○中学校校区で学習や生活面における「保幼・小中連携プラン」を作成した。来年度の初めに各家庭に配布し、幼児期から中学期まで、学校と家庭が共通理解し連携して、子どもたちの生活・学力向上に役立てる。 ○学校園所連携連絡会での授業参観や情報交換ができ、各校の児童生徒の様子がわかった。 ○全国学力・学習状況調査の分析結果や課題の共有ができた。 ◆中学校区の研究授業や授業参観などに、より多くの教師が参加し、課題や成果を共有する必要がある。	→	・小・中において児童についての情報や各教科の課題を共有して交流を行う。(c・f・g)	①年に3回(学期に1回)の園・所・小・中連絡会を開催する。 ②中学校校区で学習や生活面における「保幼小中連携プラン」の実施・見直しを行う。	・全国学力・学習状況調査の分析結果や課題を共有し、授業改善を進めていく。 ・「保幼小中連携プラン」を学級集会で保護者に配布し、家庭と学校とがそれぞれ意識すべきことを確認する。		

○「教員点検」は教員対象に実施した自己点検調査結果(1～5の5段階評価)の平均値
○「評価」は年間の取組みについて、4段階で評価
A・・・十分に達成 B・・・おおそ達成
C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず